

茨城県石岡市東成井1617の5
電話 〇二九九一五六一六二三七

第 1 2 号 (夏 号)
令和元年 7 月 1 7 日
発行 波切不動寺

<http://www.iwamanamikiri.net>



LINE@

「友だち追加」をする
と、LINE でお寺からの
通知を受信できます

令和元年六月九日

白衣観音菩薩・大黒天建立開眼法要厳修

平成30年の11月頃、寺の跡取りについてご本尊のお不動さまにご報告をしました。するとお不動さまから

「お前さまは観音さまに何かお願い事をしたことがあるか」と、聞かれました。

「ありません」と答えると

「ならば、なぜ祀っておるのじゃ」と。

お不動さまは続けます。

「形を作れ、形を作れ。」

「祥泉に白衣観音を授ける」

「祥泉は、体力的に荒行は無理だから、読経をいたせ。始めに白衣観音経を読誦すること。白衣観音は観音さまの母、阿弥陀如来の妻、とても慈悲深い仏じゃ。これから願い事があるときは信者も白衣観音に手を合わせ、経を一千巻唱えることじゃ。すれば願いは叶えられよう」というありがたいお言葉をちょうだいしました。

思い返せば白衣観音さまと、ご縁が繋がっていたのでしょ、ぐぐ。

突然、白衣観音を拜むようになったわけではありません。昭和52年7月、聖翠が仏門に入らずと前にきつかけはありました。つわりがひどく、何度も流産しかけた聖翠を思いやり、職場の同僚たちが聖翠のために慈眼院（高崎白衣大観音）で安産祈願をし、白衣観音さまを迎えてきてくれました。そんな経緯があつて生まれたのが、聖翠の次男です。そして次男の嫁、美幸さんこと「祥泉さん」が令和元年5月に僧侶となりました。

近年、子どもがでえずに悩み、参拝にいらつしやる人や、難病に苦しまれて足を運ばれる人が増えています。そういった人たちにも白衣観音さまを拜んでもらい、功德を積んで願いを叶えていただきたいと思ひます。

大黒天さまのいわれ

大黒天さまは十数年前に波切不動寺に現れました。それに気付いたのは、不動護摩供養の時です。護摩を焚いていると、護摩壇の周囲に小さなネズミが集まり、たくさんのお糞をまき散らしていきます。掃除機で糞を吸い取っても、排気口からその糞が出てしまう。ネズミを捕まえようにも、素早く逃げてしまふ。不思議なことに、そのようすは住職以外に見えないのです。

……お堂に入ってくるネズミだから、もしかすると気高い神さまのお使いかもしれない、と思つて聖翠先生は調べてみました。糞をまき散らしていたネズミは「大黒天さまの眷属」だったので。

振り返ると今から5、6年前、聖翠先生は日帰りで出雲大社へ何度も何度も足を運んでいました。インドにルーツを持つ大黒天は、日本の地祇の代表である大國主命と神仏習合の際に同一視されました。大國主命はアマテラスオオミカミの子孫たち、天皇が日本を統治



▼お稲荷さんの隣に、大黒天の石像があります。



する以前に日本の国土を開拓し、出雲に王朝を築いた英雄として、古事記や日本書紀に書かれています。先日、鹿児島の宝潤先生がお寺にいらしたときに、先生の脳裏へ出雲参りをしていた頃の記憶がよみがえりました。波切不動寺の大黒天は、出雲大社の御霊分けだと。宝潤先生いわく、

「先生が出雲さまを忘れていたので、気づかせくださったのでは？ 出雲の大國さまの御心願は「縁結び」ですよ。ご神体をお祀りしたのだから「縁結び法要」を大々的に修法しなければいけないのではないですか。この世はすべて縁によって結ばれているのですから」

とはいえ、皆さんが拜む大黒さまはインドの神でも、大國主命でもなく、波切不動明王の化身身である大黒天であることに、変わりはありません。

平成の時代が終わり、 令和の新しい時代によせて

桜花爛漫の季節……なのに大雪 聖翠先生の人生を変えた思い出

平成の時代を惜しむように、今年の春も名残の雪が降りました。聖翠が成田のお不動さまへ、参拝（仏の道を生きる決意をご報告）におうかがいした日も、満開の桜に雪が積もっていました。その日の雪降桜（ゆきふりのさくら）は、今も脳裏にはつきりと残っています。

成田山の奥に占いをすると場所があり、そこに成田の母と慕われる有名な易者の「小林桂胡（こばやしけいこ）」先生が



いらつしゃいました。当時88歳の桂胡先生は、聖翠を仏門に導いた方です。

桂胡先生は聖翠を「ママ」と呼び、親しみ深く接してくださいました。桂胡先生から「仏門に入れ」と言われても、聖翠はすぐに決断できず、一年後によくや仏門に入る決心をして、成田に向かったのです。

その日は4月だというのに大雪。お不動さまのお参りの後、報告とお礼に桂胡先生を訪ねました。雪のためか新勝寺の境内は人影もなく静まり返り、凜とした空気が漂い「これが御仏の浄土なのか」と思うような、素晴らしい光景が広がっていました。桂胡先生が

「ママ見てごらん満開の桜に大雪だよ、ここに私は50年座っていて初めて見せていただいた。

この景色、うれしいね。お不動さまが喜んでるよ。

この光景を忘れずに頑張れよ！

桂胡先生との出会い

どういった経緯で桂胡先生とご縁があったのか、お話をしましょう。

聖翠は山で滑落事故に遭って以来、見えないうものが見えたり、聞こえない音が聞こえたりする体になっていました。心療内科・精神科などに通院しても原

因がわからず、回復しません。そんな時、無の世界から霊言が聞こえました「寺に行け、仏に仕えよ」と。ある寺に足を運ぶとその住職に「大変だ、無数の霊が体に憑依している」そう言われ、祈禱をしてもらいましたが治りません。そんなことが度々あり、成田のお不動さまに参拝しました。

ある日のこと、成田のお不動さまをお参りしていると、

「下に占いの婆さんがいる、その婆さんにお前の行く道を教えたから聞いて帰れ」と、声が聞こえました。新勝寺の占いの師が集まる場所に行くと、何件もの易断所があり、どのお婆さんかわかりません。一番目のお店は待っている人がたくさんいて、見てもらうのに時間がかかりそうです。そこで暇そうにしているお婆さんの所へ行き、鑑定してもらったところ「来週、旅行のお誘いがあるでしょう。○色の服を着ると、運が巡ってくるでしょう」と、つまらない話をします。聖翠は「お不動さまの声だと思ったけど、空耳が聞こえたのかな」と、思いながら家路につきました。

次の日の朝3時、部屋の隅に大きな青い龍神が現われ、

「ばかもの人違いじゃ。一番目の婆さんじゃ、もう一度行ってこい」と言い放つと、青い龍神は消えてしまいました。午前中は休みが取れず、午後になってから職場を出て成田に向かいました。桂胡先生の所に到着したのは午後2時。

「あんた運がいいね。桂胡先生は毎日50人しか鑑定しないから、朝10時には予約が埋まるのに、今日は最後の50番目があ



いてるよ」と、受付の人が声をかけてきました。それから待つこと5時間。あたりは真っ暗。駐車場には桂胡先生を迎えに来たお孫さんの車だけが停まっています。さつきまで桂胡先生は怖い顔をして、鑑定の依頼人たちを怒鳴っていたのに、聖翠を見ると二変し

「ママ待たせたね、やっと来たか。お不動さまのお言葉が預かっているよ」と、お不動さまからのメッセージを伝えてくれました。要約すると、仏門に入りお不動さまにお仕えしてほしい、ということでした。

あれから20年、聖翠の激動の平成が終わります。今年の春、跡取りの美幸さん【僧名・祥泉（しょうせん）】が仏門※に入りました。聖翠の時と同じように、満開の桜に雪が降りました。御仏さまが喜んで、同じ光景を見せてくださいました。新しい波切不動寺の始まりです。



新しいお不動さまが開眼されて半年。ご本尊さまは、我々にさまざまに不思議を見せてくださいます。本寺の信者さんの言葉を書き留めました。

護摩の火が以前とまったく変わりました。火にあたると突き刺すように痛く、熱が体にいつまでも残っているようで、何か凄いいエネルギーを感じます。

護摩の写真を撮ってみると、お不動さまの火は真つ赤な炎で周りが黄金色に輝き、炎の中にお不動さまが見えます。いろいろな姿のお不動さまです。

昨年6月の八千枚護摩の時、護摩の火に活気が感じられませんでした。火が練れていないというか、薄っぺらいというか、がっかりしました。修法する行者の気持ちが入っていない護摩行を見せられているような気がしました。

その年の7月に、大久保先生が護摩を焚くようになると、火の勢いが強く、寺の雰囲気も明るく活気に溢れ、まるで別の寺にきたような感じがしました。今まで会ったことのない信者さんがたくさんいらして、話をしてみると10年くらい前に通っていたとのこと。大久保先生が護摩を焚かなくなった平成23(2011)年頃から、私もお寺から足が遠のいていました。なんとなく、他の信者さんが通わなくなった気持ちがわかるな、と。今では護摩の火をちようだいするのがうれしくて、お寺の清々しい気に触れたくて、来ています。

車でお寺に向かう。国道から脇に逸れ、ちよつと薄暗い森の中に入る。突き当りに石積み岩山、左に折れると目の前がパツと明るく広がる。都会では感じることのできない、木立に覆われた癒しの異空間。病気や家族の問題で悩んでいたのに、住職さんの説法に納得したり、安心したり、来てよかった。私の悩みなんて皆さんからしたら小さなもの。ここで、仏さまに手を合わせることで、幸せに導いてくれた友に感謝です。自分が変われば、原因は自分と思えばいい。さあ、自分を磨いてお不動さまに褒めていただけるよう、日々精進いたしましょう。

観音さまのお護摩の時は、紫色の炎になり、お堂全体が紫色に染まります。観音さまの神々しさと気高さと、気品に満ちた空間が作られて、そこに座っているだけで自分も仏になった気分になります。炎が観音さまのお姿になります。

◀左は観音護摩の炎。お不動さまの火より細く、紫がかつた白っぽい色であることがわかりいただけます。



▲高く、太く、勢いよく天井に向かって伸びる不動護摩の炎。以前の火には黒いシミがポツポツと見受けられたのが、今は黄金色に輝いています。

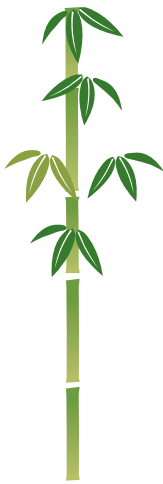
母の実家がかわいそうで、二座敷供養をしましたところ
「若くして自ら命を絶った人がいますね、供養しましょう」

たくさんのお供え、たくさんのお経を聞いていると、目の前に黒い色の御簾のかかった部屋が見えました。先生が供養者の名前を呼ぶと御簾が上がり、中から名前を呼ばれた人が出てきます。母の実家の名前が呼ばれると、御簾の向こう側から先祖らしき人たちがこちら側にぞろぞろと現れました。最後に若い女の人が出てきて、ぼつと立っています。

私は心の中で
「早く、早く、あなたも〇〇家の先祖だよ」と叫んでいました。それから猛烈な睡魔に襲われたのです。それがどうでしょう。一座目が終わると部屋の雰囲気が一転していました。視界は明るくなり、眠気も感じなくなっていました。

先生がおっしゃいました
「先祖さまは成仏できたようね」と。なんとなく肩の荷が下りた感じでした。それから数日後、母の実家のお墓参りに行くと、なんと墓石が笑っているのです。お地藏さまも笑っています。生きている私の従妹も明るく多弁になって、
「あれ以来、家が明るく会話が多くなり、楽しくなってきた」と、言います。
良かった。そつとやった二座敷供養で、こんなに気持ち前向きに変わるとは思いませんでした。皆さんも二座敷供養してみると、運が変わるかもしれませんね。

お寺が一番変わったと思うことは、大久保聖翠先生がお若くなられたことです。以前はいつもイライラしているようにお見受けしましたが、今は毎月お会いする度に若くなつて、とても意欲的に活動されているようです。私たち信者はとてもうれしいです。先生、お元気でいつまでも頑張っていてください。そして私たちを導いてください。



・信者さんの体験事例

◎お不動さまとともに歩んだ10年

鈴木研さんの体験

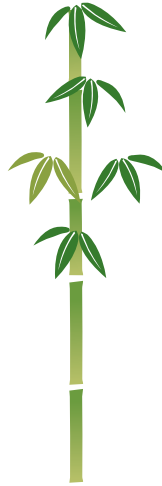
私の実家は父が自営業を営んでいました。父は我が家の敷地内にお稲荷さまのお社を建立し、業績も右肩上がりでした。一方で父は、かつて祖父がどこかで拾ってきた石を代用したみすばらしいお

墓をほつたらかしに、新築を決意しました。林を切り開き、田畑を埋め、それまでご守護いただいたお稲荷さまのお社の前に浄化槽を設置するなど、先祖への感謝や荒神さま、お稲荷さまへの畏敬の念だど一切なく、自分の城を築きました。それからというものが、我が家の運は一気に傾き、父は多額の負債を残し、不慮の死を遂げました。残された家族は債務整理に追われました。

そんな時に、私は当時付き合っていた彼女の紹介で、大久保先生に易を見てもらうことになりました。一緒に開運鑑定をしてもらい、父が未成年で苦しんでいること、神仏への不敬を指摘されました。また年回り（星回り）が最悪な時期に結婚することもあって、それからは波切不動寺に定期的に参拝し、護摩の炎を浴びて、家族の滅罪と家運隆昌を一心に願いました。やがてお願いをするだけでなく、可能な限りお礼をしたいという気持ちで芽生え、さまざまな下座行を行い、御嶽山への参拝や、滝行にも参加させてもらいました。その間に、お寺はお地藏さん建立、弁財天さま、大黒天さまをお迎えし、新しいお寺の建立に伴う遷座などを経て、大きくなっていったのです。幸せなことに、私はそのすべてに立ち会うことができ、お寺とともに私たち家族も成長できたと思います。

となった4月から住み始めることになりました。「10年ひと昔」という言葉があるように、この激動の10年を、私たち家族はお不動さまをはじめとした波切不動寺の仏さま、天部の仏さまに一心にすがり、祈りながら歩んできました。

新しい時代になっても、私たち家族は感謝の気持ちを忘れずに、お不動さまや天部の仏さまに帰依し、心にプライドを持ち、お寺とともに成長していきたいと思っています。



◎加持力で火傷を治しました

春翠さんの体験

昨年暮れの話です。息子がカップラーメンを食べたいと言うので、さっそくお湯を沸かし、容器に熱湯を注ぎ入れました。3分を待つ間、「熱いから気をつけてね」と言ったそばから「アツツ！」次男が自分の右太ももにお湯をこぼしているではありませんか！慌てつつも急いでスポンを脱がすと、ももが真っ赤になっていて、どうしようと思ったその時、お寺のお堂で話を聞いた【京子さんのお加持※】を思い出しました。

「お不動さま、どうか息子の火傷を治せるよう、私にお力を授けてください」と、一心でご真言を唱えました。何回も、何回も。息子は「ジリジリ痛い、痛い」と騒ぎましたが、

大丈夫だから一緒に唱えよう、と一生懸命に唱え続けていると、太ももの赤味がだんだん小さくなってきました。

その日の夜、息子は火傷をしていたことなどすっかり忘れ、いつものようにお風呂に入っているではありませんか。風呂上りに息子の太ももを確認してみると、やけどの跡が見当たらず。不思議な出来事でした。

※京子さんのお加持については、前号のなみきり（平成30年秋号）に掲載しています。深澤京子さんが、娘さんにお加持をした話です。

◎お不動さまからのありがたいお言葉

鈴木栄さんの体験

今から13年前の仕事上の体験談をお話します。

ある大手会社より、輸入しているタイヤの原料となる黒い微粉末状のカーボンブラックを、国内の物流にのせるため、搬送機械を製作してほしいとの依頼がありました。具体的には、海外から大型船で運ばれるカーボンブラックを常陸那珂港で荷受けし、東北のタイヤ工場へ出荷する際に使う、専用トラックへ積み込みをするための機械製作と、取り付けまでの注文です。客先の技術面での要望は多岐にわたり、審査は厳しく、設計には大変苦労しました。手直しに次ぐ手直しで、東京の本社まで幾度となく打ち合わせに出向き、やつとの思いで承認を得ることができました。

さっそく製作に取り掛かり、なんとか自社工場での試運転までこぎ着けましたが、なかなかうまく稼働してくれません。いろいろ調整しても動きません。試運転

の開始から3、4日経った頃でしょうか。妻が見兼ねて大久保先生のところへ相談に行きました。正直なところ、私は女同士で機械の話をして、わかるわけがないと思っていました。大久保先生が易で見ると「初心に帰れ」と出たそうです。その晩に、夫婦でお寺に向かい、先生にお願いをしてお不動さまにもお聞きしたところ

「同じことを何度も聞くではない、【初心に帰れ】と申したのである」とお叱りを受けると同時に、

「走り不動を向けるから、真剣に取り組み」とのありがたいお言葉もちょうだいしました。

その日のうちに会社に戻り、機械へ手を合わせ「よろしくお願います」と祈りました。あくる日より初心に帰り、設計当初から悩んでいた部分をイチからやり直し、新たな部品を組み上げたところ、うまく稼働することができました。お不動さまは、機械のことまでおわかりになり、分析もできるのだと驚かされました。

その後、大手会社に機械を無事納めることができました。竣工式の時は、客先の重役をはじめ、原料の仕入れ先の海外からもたくさんの方が来られ、搬送機械について、いろいろ質問攻めにあいましたが、言葉もすらすら出てうまく対応ができました。中国の方からは、「この仕事は匠（たくみ）の技です」と、お褒めの言葉いただきました。改めて、お不動さまに後押しされた力は大きいと、実感しました。

お不動さま、あの時は大変お世話になりました、ありがとうございました。



◎お不動さまのご慈悲

浦井光恵さんの体験

私の主人はパーキンソン病になり、18年が経ちます。地元の病院に通院していますが、このところ薬の投与だけで病状をコントロールすることが難しくなってきました。このままでは寝たきりになってしまふのでは……テレビでは、京都大学においてiPS細胞を用いたパーキンソン病の治療がスタートしたと報道されていましたが、一般に普及するまでには5年以上の年月がかかるそうです。それまで主人を今の状態のまま維持していくのは、とても難しいと、悲観しておりました。

私たちも手探りで、いろいろな治療を模索していたところ、いくつかの大病院で、パーキンソン病の外科的治療をしていることを知りました。そこで、どこの大病院が良いのか、大久保先生に易を立てていただき、「G大学が良い」と出ました。それから、不思議なことが続いたのです。

外科的治療の適応条件を満たすことができ、素晴らしい主治医にも恵まれました。当初、実際の手術の日程は半年以上先と言われていましたが、主治医の先生が提案してくださって前倒しになったのです。2018年12月17日入院、21日に1回目の電極手術、28日に電極装置埋め込み手術という計画が提示されました。改めてスケジュールを確認すると、納め観音、納め大師、納め不動に重なっていることに気付きました。これはまさにお不動さまのご慈悲かと。お陰さまで手術は無事に成功

しました。パーキンソン病を根本から治すことはまだできませんが、病気を上手にコントロールしながら、自分で身の回りのことができ、毎日大好きな仕事をさせていただけの幸せ、これこそがお不動さまのご利益の凄さなのだと思っております。

大久保先生との出会いから14年が経ちました。日々励ましのお言葉をかけてくださるだけでなく、お不動さまのご縁を授けていただき、本当にありがとうございます。これからもお護摩の火をちようだいしながら、一生懸命お不動さまにおすがりしていこうと思っております。

◎白衣観音菩薩さまの開眼法要後の聖翠先生のお言葉の中に

戸塚思月さんの体験

「年号が令和に変わり、私も70歳になったし、新興宗教を立ち上げて教祖になろうかな」なんて、先生は冗談を言っていて信者さんを笑わしていましたが、もしかしたらあれは本心ではないかと思えます。

先生はいつも信者さんの幸せを祈り、その幸せを自分の幸せのように思い、喜んでくれました。先生の願いは「もっともっと、たくさんの人を幸せにしたい」ということです。その先生に、たくさん信者さんを紹介して、教祖にしてあげませんか？ なぜなら先生はスゴイ人なのです！

私は先生が仏門に入ってから数十年、ずっとお傍にいて、そのお姿を間近で見ってきました。その中で、特に私の記憶に

鮮明に残っていることがあります。20年前、ある神社のご主祭神さまが、今の先生のお姿をはっきりと明言なさっていたのです。そのご主祭神さまが20年前に聖翠先生の体に降臨し

「この女性、偉大なるものなり。この女性、靈力を天から授かり、大きな宗教団の頭になる。そして人々を助け、幸せに導いていく。この女性に付いていく者、人も羨む身分となる。しかし驕ってはいけない。頭をたれよ。」と、述べたのです。

あれから20年が過ぎ、振り返ってみますと、あの神さまが言われた通りになりました。

聖翠先生は公立の幼稚園の先生だったのに、たった17年という短い期間に、3千800坪という広大な敷地にお寺を建立し、千人以上の信者を抱える大教団になってしまったのですから。どう考えても普通の人ではありませんよね？加えて御仏さまのお告げで始まった農業は、聖翠先生が私財を投じ、農地9千坪の土地と農家一件をまるごと購入し、広々とした農地で有機肥料、無農薬栽培に取り組んでいます。農業に無知な人たちがばかりで悪戦苦闘したり、関わった人たちが辞めてしまったりと、苦難に見舞われましたが、2年経った今ではいちご、とうもろこし、スナックエンドウ、インゲン豆、小松菜などを普通の農家さん以上に農協へ出荷し、2年という僅かな期間で一人前の農業集団になってしまいました。このことだって、神がかりです。普通に考えても、素人集団ができることではありません。聖翠先生は言います。

◀大久保先生が観音さまのお姿になり、龍のつてあらわれた姿です。





「私は農業をしたくて始めたわけではないけれど、人間は土から生まれ、土に帰る。農園で作られた野菜には、神仏の気が入っている。肥沃な土地で育った野菜を食べていると、魂が澄んできれいになる。魂がきれいなれば、悪いことが考えられなくなる。また悪い者も浄化され、心が洗われる。御仏さまの申されることに偽りはありません。おいしい野菜をたくさん作って、多くの人に食べてもらいましょう」と、常々おっしゃっています。

どうぞ皆さん、大久保農園の野菜をたくさん食べて、魂をますますキレイにしてくださいね。

皆さん、おわかりだと思えますが、聖翠先生は若い頃から不思議な霊力をお持ちだったのです。でも先生は、霊能者と呼ばれるのが嫌で、自分の持つ不思議な力を発揮できるお坊さんになったそうです。

今まで聖翠先生は、
・若い頃から霊を感じていた。

・お不動さまや観音さま、神さま方のお言葉が聞こえ、会話をしてきた。
だからお不動さまや観音さま、神さまの言われる通りに行動してきた。

・霊を自分の体に入れたり、その霊の思いを人に伝えたりができる。

・霊に憑依されている人を見分けられる。なかでも霊に憑依されて病気になるっている人には、取り憑いている霊を供養して、病気を治すことができる。

などを、はつきりおっしゃってきませんでした。しかし今後はご自身のお力をますます発揮し、皆さまを幸せにしたいと願われています。

今、私たちにできることは、波切不動寺をたくさんの人に紹介し、信者さんを増やし、聖翠先生にますますお力を発揮していただくことです。これまで頑張ってきた先生にご恩返しをしませんか！

皆さん、よろしくお願ひします。

平成最後の一大行事

左の写真は、平成最後の年に建立、開眼されました本尊波切不動明王のお姿です。信者さんの温かいご浄財にて身の丈210cmという大きな本尊 波切不動明王さまの開眼法要が、平成30年12月9日に行われました。

ご報告が遅くなりましたが、改めて「なみきり」にて掲載をさせていただきます。



貪瞋痴について

お釈迦さまは、人が生きていて、いやなことが起こったり、病気になるったりする原因は「三毒」（貪・瞋・癡）とおっしゃいました。人は誰しも貪瞋痴という三毒の心を持っています。

【貪】

欲は限りない。ただし意欲は動機付けによって上がっていくので、まるで欲がないのも考えものです。

仕事や目標を達成するためのモチベーションを上げるため、多少はあってもよいのではと考えています。年を取ると、昔ほど「したい、ほしい」がなくなるのは、体力が続かないせいかもしれません。

【瞋】

怒ることは、いかに悪いことか。腹が立つと自制心を失ってしまいます。しかも怒りのエネルギーは人に伝播されます。嫉妬の心や恨みも「瞋」に入ります。自分の思い通りにならないことで抱く、慢さでもあります。

【癡】

無明（心理が理解できない心）によって貪を得るために邪（よこしま）な行いをする。不平不満、愚痴を言う。自分に自信がないから、迷う。人のせいにする。

波切不動寺の行事予定

◆月例行事◆

- 第二日曜日 11時～日曜護摩
- 17日 18時～十一面観音縁日護摩・弁財天供養
- 28日 18時～不動明王縁日護摩
- 第一午の日 19時～稲成供養会
- *28日 不動護摩の後、荒神供養

第2日曜日は護摩の後の14時～、17日と28日は護摩の前の15時～【合同二座式供養】を修しています。お申し込みは、当日の12時まで受け付けています。申込者が参座できない場合もご供養いたします。

◆下半期 定例行事◆

- 8月1日～3日 早朝6時～キュウリ加持祈祷会
- 8月13日 18時～盂蘭盆会（迎え火）先祖供養会
- 8月16日 18時～盂蘭盆会（送り火）先祖供養会
- 9月秋分の日 秋彼岸みちびき地藏・先祖供養会
- 12月8日 【縁結び大黒天一千枚護摩供養会】

*法会終了後：大久保農園にて冬野菜の収穫祭の予定

※行事の日時は、寺の掲示板または寺のホームページでご確認ください。



この貪瞋癡を人間の三毒と言います。自分に負をもちたらずだけでなく、人との繋がりを破壊します。三毒をなくすなど、不可能です。それよりも三毒をどうコントロールするか。お不動さまの火にあたると、三毒を抑え込む力が備わります。自分で貪瞋痴を制御できるようにになると、生き方が変わってきます。

合掌